

豊かな狛江をつくる市民の会通信

豊かな狛江をつくる市民の会

(仮) 狛江市東和泉 2-20-12-103

みんなの広場

連絡先：080-5084-1821 (前土肥)

郵便振替口座番号 00140-3-727253

豊 かな 狛 江

第 243 号 (2020 年 10 月号) / 2020 年 10 月 1 日発行

ありがとう・さようなら



絹山達也さん追悼号

2020 年 9 月 4 日 (金)、「豊かな狛江をつくる市民の会」の事務局長 絹山達也さんが逝去されました。突然の訃報に世話人一同、驚きと良きリーダーを失った悲しみでいっぱいです。 本号は絹山さん追悼号として仲間たちからの思いをお届けいたします。



絹山達也さんの急逝を悼み、心よりお悔やみ申し上げます

豊かな狛江をつくる市民の会共同代表 増田 善信

絹山さん急逝の知らせを受けた時は本当に驚きました。最近、お身体のお具合があまりよくないことは存じていましたが、まさかこんなに早いとは思っていませんでした。

ご家族のご心痛はいかばかりかと思います。心からお悔やみ申し上げます。私たち「豊かな狛江をつくる市民の会」の痛手も大きく、茫然自失の状態です。

ここでは、絹山さんがそれこそ心血を注いで、しかも事務局長として「豊かな狛江をつくる市民の会」とかかわってこられた歴史的な業績について述べ、追悼の言葉とさせていただきます。おそらく、矢野裕元市長も詳しく述べられると思います。私の記述との間に齟齬があるかもしれません。その時はお許してください。

狛江市に市民運動的な民主的組織ができて、狛江市政の革新を目指したのは、「小さな声を聞く狛江市民の会」が組織され、その推薦を受けて私が市長選挙に出馬した1988年でした。1967年の美濃部革新都政の誕生に象徴されるように、1960年代後半から1970年代は、「革新の時代」で多くの自治体で革新首長が誕生しました。この多摩でも、ほとんどの市で革新市長が誕生しましたが、狛江市は例外で、革新市長が生まれなかった数少ない市の一つでした。社会党・共産党が共闘しても30%の得票が取れない市でした。その市で38.6%を取ったのです。その4年後の1992年には「新しい狛江をつくる市民の会」という組織に拡大し、原正敏東京大学名誉教授を擁して、初めて40.2%の得票を獲得しました。

実はこの二つの市長選挙は、もちろん社会党に共闘を申し入れました。しかし、断られ、推薦も断られました。当時、絹山さんは社会党系の活動家でしたが、私の選挙の時は、個人的にカンパをして応援し、原選挙の時は「共生の街」として推薦し、選対にも加わって頑張ってくださいました。

1996年の市長選挙から絹山さんは本格的に狛江市の市長選挙に関わるようになったと思います。最初は市長候補を「公募」で選ぼうという「市民派市長を！手づくり運動96」を立ち上げられた21人のお一人で、この会の代表を務められました。確か、この会が公募した市長候補は、最初は11名で、絹山さんも矢野さんも含めた4名に絞られ、それぞれが「立会演説会」で政見を述べ、最終的に矢野さんに決まったと思います。

その絹山さんが、矢野さんが市長候補に決まると、一転して矢野さんを支持されるようになりました。矢野さんの支持母体「豊かな狛江をつくる市民の会」はそれ以後、支持母体から、狛江市の革新運動の拠点に発展しましたが、絹山さん

はその要の事務局長になり、ご逝去されるまで、その中心になって活動されたのです。並みの人にはできる技ではありません。本当に絹山さんは非凡な人でした。

「豊かな狛江をつくる市民の会」は世田谷区労協から大きな支援を受けました、市長選挙のたびに多額のカンパを寄せていただき、時には選挙応援までしていただいたこともありました。これが出来たのは絹山さんが自治労世田谷支部の組合員として大きな人脈を持っておられたからでした。市長選のたびに絹山さんと一緒に世田谷区労協の組合事務局を訪ねてお願いしました。これも忘れられない思い出です。

私事ですが、私は「豊かな狛江をつくる市民の会」の代表の末席をけがしていますが、絹山さんには本当に助けられました。毎年の総会の議案書と毎月の代表者会議のレジメ、すべてご自分で作られましたし、新年会の設営から司会まで、実に手際よくおやりになられました。毎月の九条の会の駅頭宣伝も、マイクから標旗まで、自分で準備され、独りででもマイクを取って、あのユニークな語り口で宣伝されていました。

安保法制改悪の時も、毎回国会前行動を組織され、どれだけ多くの人が絹山さんの背中を見て国会前に行ったことでしょう。衆院選 22 区の野党共闘の「ちょこなみ」を組織されたのも絹山さんでした。

私たちは、どれだけ多くのことで絹山さんにお世話だったのでしょう。数え上げればきりがありません。本当に、絹山さん、長い間お世話になりました。御礼の言葉もありません。どうか安らかにお休みください。

「達 樹 貫 道」

豊かな狛江をつくる市民の会共同代表 矢野 裕

9月4日、絹山達也さんが亡くなった。急な知らせだった。通夜のあと、泉龍寺ご住職がご遺族へ戒名の説明をされていた。

「達也さんはいつも狛江駅頭で市民に訴えている姿が印象に残っている。緑繁る樹が常に変わらず立っているかのようだった。彼は自分なりの信念を貫き通して一生を送ったのではないか。それを「達樹貫道」という言葉を戒名に込めた。」こんなお話だった。

達也さんの生き様を見事に表わしているように私は感じた。

彼とは不思議な縁だった。中学二年では同じクラス。高校も同じだったが、そ

の頃はほとんど付き合いがなかった。大学は異なったが、通学途中の新宿駅で出会った時、私の詰め襟の青空バッジ（美濃部亮吉さんの都知事選で使われたイメージバッジ）を見て、「私も着けてるよ」と襟を裏返して見せてくれた。疎遠だった友人が、同じ価値観を持っていたことはちょっと嬉しい気がした。

卒業して数年後、2人は狛江の市民運動で再会した。達也さんは社会党系の市民活動家で、私は日本共産党の市議。ともに革新ではあったが、当時の時代背景もあり市政や街づくりでは張り合っていた。接点を縮めたのは狛江市長選。88年市長選では初の「市民と共産党の共同候補」増田善信事務所に彼からカンパが届けられ、92年の原正敏候補のときは選対事務局と一緒にやった。そして96年選挙では市長候補の公募運動を組織して、私に出馬要請した。もし彼がいなかったら矢野市政はなかっただろう。「豊かな狛江をつくる市民の会」が結成されたとき初代事務局次長を受け、当選後も市民派市政を支えて、途中から事務局長となり16年もの長きに渡って奮闘してくれた。

保守市政復活後も変わらず、達也さんは体調を崩しながらも、駅頭で政治転換を訴え続けた。半世紀を超えて信念を曲げず、政治活動、市民運動の先頭に立っていたことは、まさに「貫道」にふさわしい人生だった。そして根を張り、枝を伸ばし、住みよい社会をめざす「大樹」の役割を、私たちは彼から引き継がなくてはならないだろう。

お疲れだったでしょう。どうぞ安らかにお眠りください。

心から哀悼の意を捧げます

豊かな会初代事務局長 久慈 正己

9月3日、豊かな狛江をつくる市民の会の絹山達也事務局長緊急入院と、信頼する友人から突然の電話、難聴である私、エエッと聞き返す。絹山さんが緊急入院と、危機感こもる声が伝わってきました、症状がわかったら改めてと。翌日の昼前、訃報のお知らせ。私の脳内、無念の思いは素直に涙腺に伝わった。ありし日の元気で精力的にテキパキ連絡する姿が浮かびます。

9月5日の夜、奥様・ご家族の永遠のお別れに戸惑う最中でしたが、弔問にお伺いさせて頂きました。お顔はしずかな寝顔のようでした。人生の無情を恨みながら、心からありがとう、今迄の交流、感謝、心をこめて手を掌わさせて頂きました。

私は狛江に居をかまえて51年、絹山さんと顔見知りになりましたのは、40数年前くらいで、知友得たのは、1992年、28年前の原政敏市長候補と共に選挙戦

を闘った時です。その一生懸命さや人柄の良さ、人間的魅力、狛江市政の民主化、市民本位のまちづくりの熱意に共感を覚えました。市民から42%の支持を受けたものの敗退、然し4年後の次回は楽しみだとの共通の認識で一致したことを思い出します。

「共生のまち、狛江を目指す会」の代表者であった絹山さんは、勉強家、行動派でした。1996年2月、7月の市民派市長選候補者を「公募方式」で、市長選予定候補者の擁立、手作り呼びかけ人会議を立ち上げました。

余曲折、経緯、思想信条の違いを越えて音頭をとり、狛江市第1中学校の同級生で、狛江市日本共産党市議会議員矢野裕氏を市長予定候補者に、主導的役割を積極的に働かせた絹山さんの懐の深さ、根からの本当の市民派、社会運動家でした。そんな絹山さんを心から尊敬していたのです。

全国的にも有名になりました共産党員矢野市政誕生前後の活動本当に必死でした。4期16年、経緯、成果、教訓いろいろあり、その都度個別の意見交換もさせて頂きました。気をつけて頂きありがとうございました。

豊かな会事務局長として多忙な絹山さんの“地味な”側面、矢野さんへの中学校同級生としての遠慮？気遣いも感じられました。その意味で矢野市政16年間は、共に歩む豊かな会事務局長として奮闘する絹山さん抜きに語ることは出来ないでしょう。

最後に私ごとで恐縮ですが、私の仕事上のことでもお世話いただき感謝の念を深めています。

絹山さん、貴方の一つ一つの働き行動が、狛江の東京の全国の平和と民主主義、市民運動の1ページ積み重ね貢献するものでした。心からのご冥福をお祈りします。 合掌

故絹山達也さんを偲んで

日本共産党狛江市議会議員 鈴木悦夫

絹山さんとの出会いは、私が議員になってまもなくの頃でした。第六小学校に入学しようとしたW君が、障がいがあることを理由に市教育委員会から入学を断られたことをきっかけに起った運動のなかでした。絹山さんが、雪が降る中、市役所の門前で市の職員にW君の実情を訴えようとビラを配る姿が強く印象に残っています。

その後、増田善信さんが立候補した市長選をはじめ、矢野さんの市長選とその後の市民派市政を支える運動、矢野さん退任後の田辺さんの市長選と市議補欠選挙への勇気ある立候補、そして毎月の九の日行動など、絹山さんとずっとご一緒させて頂きました。

いつも市民の目線で発言され、市民とともに行動し、常に市民派市政の発展、また復活に奮闘されている姿が目には焼きついています。市政運営上の難しい課題に対しても、さまざまな資料を集めて分析し、関係する市民の声を聞きながら、市民の立場からの展望を示し、市民の運動を励まされ、私もおおいに励まされました。

晩年は病に冒されながらの活動で、苦しかったのではないかと思います。それを十分ささえることができなかったことを申し訳なく思っています。

絹山さんが、豊かな粕江をつくる市民の会の事務局長として、ほんとうに長い間、市政の発展のために尽くしてこられたことに、心からの敬意と感謝を申し上げます。絹山さんがめざした市民派市政、市民が主人公の市政の実現に、私もがんばります。

絹山さん、ほんとうにありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

その先に…

日本共産党東京都委員会委員長 田辺良彦

突然の訃報に本当に驚きました。ご家族のみなさまに心からのお悔やみを申し上げます。

絹山さんは、うまくいっている時もそうでない時も、平和と民主主義、市民派市政の前進のために揺らぐことなく、諦めることなく、自らの信じる道を黙々と営々と歩まれました。12年ほど前にある研究所の雑誌が、矢野市長・絹山さん・私のそれぞれのインタビュー記事を掲載しました。そこで絹山さんは、矢野市政誕生のかなり前からの市民運動と市政の転換の努力を淡々と語っています。矢野市長を誕生させた選挙を市民による「手づくり運動」として準備したことや、市議だった矢野さんを市長選挙に擁立する苦労も「私は大丈夫だろうと思っていた」と達観していたことを振り返っています。記者は絹山さんについて「『迫力』を感じました」と記しています。私も、絹山さんの存在には、一種の「凄み」を感じてきました。

市政が難しい局面を迎えた時、いつも私は絹山さんと二人で率直な話し合いを重ねました。意見をたたかわせたり、知恵を出し合ったりしたことがとても懐かしい。矢野市長4選をめざす選挙の最終盤、選挙事務所の屋上で、二人で情勢を分析しました。この時、絹山さんが予想した矢野市長の得票数は13,300票、私の予想は13,500票でした。それぞれまったく別の根拠からこの数字を出し合いましたが、近い数字になったことにお互いに「やっぱりね」と受けとめたことを鮮明に覚えています。私にとって絹山さんは深く信頼できる大先輩でした。実際の矢野市長の得票は13,396票でした。

2012年に矢野市長が勇退され、私が市長選挙に、絹山さんが私の市議辞職にともなう市議補選に立候補し、一緒に選挙をたたかいました。この時も何度も二人で話し合い、その中で私は心の底から絹山さんを尊敬し、敬愛するようになりました。この気持ちは私の家族も同じです。狛江市政をめぐる私と絹山さんとの話し合いは、私が日本共産党東京都委員会で活動するようになってからも何度か行われました。絹山さんから私への依頼もありました。「私は絹山さんからの求めを断る立場にはありません」とおこたえしたものです。

草の根でみんなで力をあわせて声を上げ、平和と民主主義のために最期までやれることは何でもやってこられた絹山さん。長い間、ありがとうございました。

絹山さんの姿を胸に刻み、必ず野党連合政権をつくり、その先の新しい政治を実現するために、私もたたかいぬきます。

絹山達也さんとともに

こまえ社会保障推進協議会代表 岡村 誠

絹山達也さんとの出会いは矢野ゆたかさんの最初の市長選で一緒に闘った時でした。その後もずっと一緒に運動をしてきました。「こまえ社会保障推進協議会(こまえ社保協)」は9つの団体が参加して2013年9月1日に結成されました。6回の準備会を行い規約案や当面の取り組み案などは決まったのですが肝心の会長が結成総会直前まで決まりませんでした。最後に私に白羽の矢が立ち私の説得にあたったのが絹山さんや年金者の会のメンバーでした。私は準備会にも全くかわっておらず固辞したのですが最後は引き受けました。

その後「戦争法」に反対して立ち上げた「戦争なんてイヤだ！こまえ市民実行委員会」、3回の市民デモ、野党統一を目指す「ちょこみなの会」でも立ち上げから運動までずっと一緒にやってきました。絹山さんは目立って先に行くタイプではありません。地道に組織作りは行いますが周りの人を立てる謙虚な方だとつくづく感じました。また、国会前や日比谷公園などでの集会では、いつも「豊かな会」の旗を持つ絹山さんの姿がありました。

最近は体の具合がよくないのか会議の途中で帰ることが何回かありました。「無理をしないで下さい」と言いながらも絹山さんに頼ってきたことが悔やまれます。常に前向きに生きてきた絹山さんの死は残念であり無念です。ご冥福をお祈りいたします。

絹山さん、お疲れさまでした！

都教組北多摩東支部狛江地区協議会元議長 坂本 昭雄

突然の訃報に接し、本当に驚いております。そして悲しく、寂しい思いでいっぱいです。

絹山さんとの出会いは、矢野市民派市政を誕生させた頃からです。当時、市民派市政の実現を目指して多くの市民・団体の推薦を受け立候補された増田善信さんが39%の高得票をされながら惜敗されました。次回こそは過半数に届きそうだという雰囲気の中で迎えたのが、石井市長の賭博辞職を受けての市長選でした。そこで今度こそということで矢野ゆたかさんを候補者に市民派市長実現のために取り組みが始まった時でした。その運動の母体として豊かな会が1996年にスタートしたのです。

その時から現在まで20余年にわたる長らくの間、事務局長としての職務をまさに一身に引き受け、身を粉にして頑張ってくられました。

直近の通信「豊かな狛江」は242号（2020年9月号）です！この20余年間の経過を見れば、毎回の市議会の報告、市・都・国にかかわる各種選挙戦、各種市民運動・活動への取り組みなどなど、きめ細かな多岐にわたる活動の「要」として奮闘されてきたことは一目瞭然です。しかしこの数年、体調不良を訴えられる中、事務局長交代の提案や「選挙が終われば寝てしまう」といわれる豊かな会の組織態勢の立て直しを進められる中での急逝でした。

絹山さんが求められていた市民本位の狛江市政実現に向けての運動においてぽっかりと大きな穴が開いてしまった感じです。

今後、絹山さんの意思を受け継いで豊かな会をさらに発展させ、市民派市政を一刻も早く奪還するために総力を挙げて頑張りましょう。

絹山達也さんへの追悼

調布狛江府中民主商工会 狛江支部 石塚輝義

狛江市内のみならず全都全国に市民運動の発信を進めてきた「豊かな狛江をつくる市民の会」、その中心を担ってきた絹山さんの訃報に、ただ立ち尽くすばかりです。民商の商工新聞を一読して購読してくれたこと、選挙や社保協の取り組みなど活躍が思い起こされます。9月の初めに伺った時には、体調が良くない中、とても良い笑顔で話されていたことが忘れられません。今でも絹山さんが亡くなったとは信じられません。ご冥福をお祈りいたします。

「平和・人権・自治」を旗印に

こまえ年金者の会事務長 脇山康男

絹山達也さん、生前の偉大な足跡に敬意と感謝を表明し、心底からご冥福をお祈りいたします。

私が粕江市民となったのは、石井市政の時代でした。その時点から、粕江市内外で「平和・人権・自治」を旗印として多彩な活動を精力的に展開しておられる絹山さんに共鳴し、「豊かな粕江をつくる市民の会」をはじめとしていろいろな活動で一緒させて頂き、多大なご教示を賜りました。

地域の環境問題や市民自治確立等の市民運動が絹山さんの奮闘で前進を遂げ、4期16年の矢野市民派市政実現に結実したことは、全国的にも素晴らしい快挙でした。

絹山さんのウイングは、都政や国政の民主化運動にも当然伸ばされ、立憲野党と市民の共闘を軸に、各種の選挙、大衆行動等々で中心的な役割を發揮して下さいました。

活動のお仲間や多くの市民、幅広い学者・文化人との交流・意見交換の中で、運動上の政策や方針を練り上げる抜群の能力、旺盛な自己研鑽―誠に頭の下がる思いです。

絹山さんの遺志を継ぐ力の無い私を自ら不甲斐ないと思いますが、何か一つでもできることが見つけれられたらとは考えています。

コロナが収束したら、“偲ぶ会”で絹山さんの活動について語り合い、学び合いたいと思っていますが、いかがなものでしょうか。 合掌

絹山さん ありがとうございました

豊かな会世話人 和田哲子

豊かな会にかかわって何年になるでしょうか。何というほどの働きは出来ませんでした。がせめて世話人会への参加は梅木さんと一緒にかなり多かった方だったと思い出します。まだ「みんなの広場」がなかったとき、ある年の8月、公民館の和室で絹山さんと梅木さんと3人だったこともありました。絹山さんは毎回欠かさず、準備まで整えて主催してくださったのですからどんなに大変だったでしょう。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

教科書問題についても、「子どもと教科書粕江の会」のニュースや提出した要望書などを積極的に「豊かな粕江」に載せて下さって、自分たちではごく少数にしかお伝えできなかったことを、たくさんの方に知っていただくことができて、

本当にありがたいことでした。

新春の集いのために、一生懸命自転車をこいでお寿司やオードブルの注文に走り回ったことも思い出します。また、一緒に「乾杯!!」をやりたかったと残念さがこみ上げてきます。

「カラスの鳴かない日はあっても絹山さんの声の聞こえない日はない」と思われた駅前でも、もうお声をきくことはないのだと思うさびしくてたまりません。なにもかも本当にありがとうございました。

絹山さんへの追悼

豊かな会世話人 若見洋子

事務局のメンバーとしては絹山事務局長にすっかり頼りきっていましたので、樹木が倒ればっかりと洞ができた様な気持ちです。

先日のお別れ会で絹山達也さんの活動範囲が大変広いため、その関係の皆さまが多勢おいでになりました。これまで折にふれ伺っていた以上に広く根を張り活動をなさっていらしたのだと感動しました。これまでありがとうございました。

絹山さんの輝きー市議補選挑戦の頃

豊かな会世話人 西尾真人

絹山さんの思い出といえば、2012年の市長選挙の時、同時に市議補選があり、絹山さんが果敢に立候補しました。その時の絹山さんの積極的な姿勢に大変感銘を受け、人前に出ることが苦手な私が微力ながらも応援しようと、候補者カーの前で市民に訴えさせていただきました。

残念ながら議員に当選しませんでした。絹山さんの輝きを思い起こしながら、それを追悼の言葉とさせていただきたいと思います。生涯を粕江の平和と市民のための街づくりに心血を注がれた絹山さんに、合掌。

2012年6月23日 粕江市議会補欠選挙候補者カーの前で。

私が初めて絹山さんに会ったのは、3、4年前です。

定年退職して非常勤の嘱託で勤めていたときに、粕江に30年住んでいるのに何も知らないことから、少しは市民運動に関わろうかと考え、関心のあった平和問題で「こまえ九条の会」の世話人の集まりに飛び込んだのがきっかけでした。以来、絹山さんにはお世話になり、その後、豊かな会の世話人にもなって、今回

の市長選・市議補欠選挙にも関わらせていただいています。

九条の会では毎月9日と19日に粕江駅頭で憲法九条を守ろうとの署名と宣伝活動をしているのですが、絹山さんは、いつもいち早く来て、準備し、直ぐにマイクを持って呼び掛けています。まるで当たり前であるかのように淡々と話し始める、この積極性に私はとても驚きました。私自身は、1年ほどはとてもマイクを持って話すことは出来ず、促されながらも後ずさりをしていました。絹山さんのこの積極性は一貫していて、粕江で生まれ、育った絹山さんは、粕江を住みやすい街にすることに情熱を燃やしています。平和運動、自然を守る運動、粕江の街づくりに関係したことは特に積極的です。街づくり条例やむいから民家園の運動など多面的に関わっている市民運動家です。そこらの議員よりははるかに粕江の歴史、地理、風土、市政を本当によく知っている生き字引のような方です。

私は昨年、粕江市と共同主催している平和フェスタの実行委員長でしたが、その時に在日2世の姜尚中さんを講演者にお呼びしました。そこで、在日コリアンと粕江市の関わりを取上げたパネル展示を考えましたが、なかなか良いテーマが見つかりません。絹山さんに相談したところ、すぐに玉翠園と在日の問題を調査している方を紹介されました。早速、その方にお会いして、粕江の戦前戦後の郷土史を発掘、平和フェスタで展示することができました。本当に貴重な郷土史を皆さんに広く知らせることができ、粕江の人や関係者に好評を博し、後日、数百部の冊子を作成してお配りするおまけまでつきました。

絹山達也さんは、このように本当に粕江を良く知っている方で、粕江を愛し、粕江のために一生懸命な方です。

是非、この機会に議員になっていただき、市民派市政にふさわしい議会にして頂きたいと思います。心から皆さまにご支援をお願いしたいと思います。

いつも先頭に

匿名(和泉本町1丁目在住)

私は、福島第一原発の事故の翌年の2012年1月に早期退職をしてから粕江の市民運動の一部にかかわるようになりました。絹山さんはそのずっと前から粕江の数々の市民運動にかかわっていました。

絹山さんとは、「原発ゼロ」の運動、「平和憲法を広める粕江連絡会・こまえ九条の会」の運動、そして「豊かな会」などの市民運動で一緒にさせていただきました。市内の宣伝活動やデモはもちろん、国会前や日比谷公園のデモではオレンジ色の「豊かな会」のノボリを持ってデモの先頭を歩く絹山さんがいて、なんと精力的な方だろうと思っていました。

絹山さんと一番の接点は「豊かな会」の会報の発行です。2011年半ばからウ

エフ・マスターを担当した関係で、絹山さんとはメールの交換が多かったのですが、絹山さんは、毎月の豊かな会の会議を設定し、会報の内容を作成し、印刷し、配布するところまでの多くの作業を一人でやってくれていました。それも相当長い期間に渡ってです。

絹山さんの世田谷や狛江での長い市民運動の話聞く機会がなくなってしまったのが残念です。絹山さんのご冥福をお祈りいたします。

絹山さんの訃報を聞いた時、「早すぎる！」とビックリしました

こまえ年金者の会 高橋 廉

私が絹山さんから学んだことは沢山ありますが、そのひとつは「リーダーは会議や集合時刻に遅刻してはいけない」ということでした。

例えば、集会に参加する時、絹山さんはいつも改札口前で旗を持って、みんなを待っていました。都合が悪くなれば、必ず代替の人に委託していました。

逆のケース（リーダーが平気で遅刻をすること）を経験していた私にとって、リーダーの行動がいかにメンバーのやる気を左右するかを知っていたので、絹山さんの行動にはいつも敬意の気持ちを抱いていました。小さい話かもしれませんが、小さい話こそ大きな意味をもっているといつも思っているので書きました
絹山さん、ありがとうございました。

机を並べて仕事

元同僚 脇山詔世

昭和 47、8 年頃、私は世田谷区役所福祉課で絹山さんと、机を並べて仕事をしていました。絹山さんは、自身の仕事は手早く済ませ、原稿を書いている姿をよく見かけました。私はこの頃産休をとり、係の皆さんにカバーしてもらう身でした。

産休を終え出勤した時、長男の名前を聞かれ、「そうせい」と紹介しました。その後、絹山さんとは別々の職場になり、お会いすることはありませんでした。

昭和 55 年 8 月、「そうせい」が小学校 1 年生の時、世田谷区から狛江市に転居し、狛江第三小学校に転校しました。その頃、狛江市は地元の大地主が交代で市長となっていました。次第に新しい住民が増え、選挙のたびに革新市長候補が力を強めてきていました。

バカラ賭博で全国に汚名を広げた石井三雄市長は、狛江市民にとって大変不名誉なことでした。代々狛江に住む絹山さんには、この汚名には私以上に心を痛め

たことでしょう。絹山さんは次の市長選挙で、小学生の頃から同級生だったという矢野裕氏の当選に向け、団体や個人が結集した「豊かな粕江をつくる市民の会」の事務局長として大いに活躍し、革新市長誕生を実現させました。私は一市民としてお手伝いをしましたが、そんな中、久し振りに絹山さんとお会いした時、こんな話をしてくれました。

“うちの長女が小学一年生の時「そうせい」という子が転校して来たヨ。と言うので、もしかして苗字は「脇山」って言ってなかった？と聞いたら、娘はそうだということで、すぐ分かったヨ”と。「そうせい」という名が「ソーセージ」と言えば覚え易い名前、絹山さんも覚えていただいたのかも知れませんが、私の産後に聞いた名を6～7年経っても思い出して下さったと感激したものです。私が出産した頃、絹山さんもお父さんになったのですね。今では叶わない事ですが、思い出話などもっとしたかったと残念です。 合掌

「九条の会」をいよいよ大切に

こまえ九条の会発起人 劇団民藝 箕浦康子

国会へのデモ、粕江市内のデモ、市民センターでの勉強会、平和フェスタ…、数え上げれば限がない程、絹山さんにはお目にかかっていました。絹山さんの一寸はにかんだような笑顔を拝見すると、いつも何故かホッとしました。そうは言っても御挨拶するだけで、ちゃんとお話した事はなく、何時かゆっくりお話出来ればと思って居りましたのに、本当に残念です。「九条の会」をいよいよ大切にしなければと思って居ります。

絹山達也さんを偲ぶ

「粕江のまちを考える会」 稲葉和也

絹山さんの突然の訃報に接してすぐ思われたことは、氏は日頃人を介した活動にエネルギーを注いでおられましたので、この半年間のコロナ禍のために人との接触もままならない異常な状況が或いは間接的な死因となったのではないかということでした。

私は昭和50年から粕江に住み始めましたが、通勤では駅前の開かずの踏切に難儀しておりました。そしてその改修のために一小が移転され、昭和61年には粕江駅北口整備計画の検討を「市民の会」と行政で行うことになり、絹山さんの存在を知りました。彼は地区計画分科会で北口広場の景観の在り方を最後まで続

けました。

その北口整備と共に平成3年小田急線高架事業による旧荒井家住宅の保存運動が起り、市による古民家園構想計画検討委員会でもご一緒に、平成14年「むいから民家園」の開園を迎えました。それから13年間市民による委託管理が行われ、子供と宿泊体験、流しソーメンなど様々な行事をご一緒しました。毎月行われた理事会や幹事会の司会役は決まって絹山さんをお願いしましたが、公平に要領よくまとめる技量はさすがでした。

絹山さんとは市民活動を通じてかれこれ40年間お付き合いさせて頂きました。その後は絹山さんが経営されている「みんなの広場」で、私たち「狛江のまちを考える会」のメンバーが月一回料理を作って会合させて頂いていますが、その会もコロナ禍のために3月以後中止の状態で、絹山さんにもお会いしていませんでした。

人のつながりを大事にし、郷里を愛した永遠の闘士絹山さん、どうか安らかにお休み下さい。

「市民^{ひと}輝く狛江へ」絹山達也さんありがとう！

豊かな会世話人 大久保高子

現在は社保協を中心に狛江市の予算に対して要望書を提出していますが、当時は各団体がバラバラに提出していました。絹山さんの呼びかけで、各団体が集まって相談をして、絹山さんが中心となって、交渉もしていました。このことは一例で、あらゆる市民運動の場に絹山達也あり！でした。ある日の交渉のあとに、「市民の要望が通る市政にしないとだね。今度の市長選は頑張らないと」と私に話され、あとになってから、この時にもう次の市長選のことを考えていたんだと思いました。

1996年の市長選挙で「市民派市長を！手づくり運動96」が、21人の呼びかけで発足しました。もちろん中心は絹山さんでした。仕事を持ちながら、会をまとめるのはもちろん、いろんな方との折衝や会員通信の発行やチラシの発行など、先を見据えて精力的にこなして、すごい人だなと思いながら一緒に運動をすすめました。

その年の6月5日に、「手づくり運動96」と4年前の市長選挙確認団体であった「新しい狛江をつくる市民会議」の合同会議で、矢野ゆたかさんへの要請を決めて、ご本人から受諾回答がされ矢野ゆたか市長候補が決まりました。それをうけて新たな確認団体「豊かな狛江をつくる市民の会」が発足しました。事務局長は久慈正己さん、絹山さんは事務局次長で、呼びかけ文を作る議論のなかで、「市民（ひと）輝く狛江」を考えたのは絹山さん。「メインスローガンは『いま狛江

が変わる！人が活きる 街が活きる ころゆたかな”まち” へ』です」と書かれました。

絹山さんは、毎朝の駅宣にギリギリまで参加して職場に出勤し、“ただいま”と選挙事務所に帰ってきて、会議や作業を遅くまでこなしていました。そして、7月7日七夕の夜に矢野市長が誕生しました。選挙後、『「小異を捨てて大同につく」というけっこう難しいことを実践しました』と、絹山さんは書いています。

その後事務局長となり、今日まで「豊かな会」を引張ってこられました。「出前懇談会」や「100人スピーチ」はもとより、何よりも「予算とおせ運動」は、絹山さんなしには成し遂げられなかった運動でした。

いつも楽天的で、あくまでみんなの意見を聞いて決める。名ディレクターと言った人がいます。絹山さんを支える体制づくりが必要だな～と感じているなかの突然の逝去でした。もう少し生きていてほしかった。野党連合政権の誕生を一緒に喜びたかった。(合掌)

追悼：絹山達也さん

粕江・まちづくり市民会議 吉田清明

絹山達也さんは30年以上の市民版まちづくりでの仲間でした。当初は粕江北口再開発事業。七つの市民分科会中、絹山さんは景観分科会、わたしは交通道路分科会。毎週、市側との激烈な議論の末、駅前の顔として今に至ります。大半が40・50代のエネルギーな方々でありました。

その後1998年の都市計画マスタープラン策定委員会が契機となって、この委員会終了後粕江全体について調査・検討すべく「粕江・まちづくり市民会議」が結成され、絹山さんは当初からメンバーとして参加されました。

このまちづくりの視点は粕江の特性を活かそうとするものでした。小規模なコンパクト性、平坦な地形、各所に緑や農地が残る豊かな環境面から、車からの視点ではなく人の目線での提案を目指すもので、現在でもその活動は継続しています。年度毎のまとめに際し、絹山さんは分かりやすく親しみやすい言葉として表現することに長けていました。これは長年の様々な経験を通して蓄積された結果であったと思います。

まちづくりは息の長い道のりです。行政側と市民との協同が密に問われる課題を含みます。絹山さんはこの課題に対し自分の立ち位置を貫き通した生涯でした。



作業風景

この姿勢での目に見える結果が「みんなの広場」です。これがどのように発想され、実現への道筋を建てられたのか、かなり困難な状況があったと思われます。民間の一市民がこのような施設を立ち上げ、維持し、運営することは非常に困難を伴うものです。彼はこれを実現させて今日まで続けてこられた。今まで数多くの団体がこの恩恵に浴して来ました。わたしの別のグループ「狛江のまちを考える会」、これは北口再開発事業後にかかわった市民メンバーにより結成されたものですが、このグループもこの施設なくしては続けることが不可能であったでしょう。この「みんなの広場」の事業は狛江市民にとり極めて貴重です。絹山さんの意志を継ぎ、何らかの方向が示されることを切に望みます。

絹山さん、本当に長い間お世話になりました。長年の功績に改めて深い謝意をささげます。ありがとうございました。
ご冥福をお祈りいたします。

絹山さんの思い

狛江・まちづくり市民会議 林 健彦

写真ではなく一枚のチラシを見つけました（p.24 資料参照；第26回まちづくりシンポ「公共施設計画を考える」—2015年中央公民館のつどい参加企画—）。

補足しますと開催は、①市民活動支援センターについては設置基本方針が公表され、パフコメ・説明会の直前、②むいから民家園については13年間の市民協働による運営が3月末で廃止となる直前、③「ぼかぼか広場」への障がい者支援施設設置については近隣の反対運動で先が見えない状況でした。その後隣接マンションと市は和解してこの土地を返還、障がい者支援施設は別の場所に。④市民センター（公民館・図書館）については2014年の市民説明会で改修の議論を「時間をかけ市民と共に行う」とされ、それを受け「市民センターを考える市民の会」が2月に発足した直後でした。

私は「共生のまち—狛江をめざす会」のメンバーとして途中からお手伝いしましたが、26回（26年）も続けていたとは！絹山さんは毎回ホットなまちづくりのテーマ（都立公園化計画、議会改革など）を取上げ、当事者を招き、現状と課題を報告してもらい、ネットワークづくりも見据えていたのでしょう。

わがまちを住民自らの手で住みよいまちに、共に生きるまちにしたい、市民主体のまちづくりという絹山さんの熱い思いが伝わってきます。長年にわたる月刊市民活動情報誌の発行（「ひろば狛江」（共生の会）から「豊かな狛江」へ）、「みんなの広場」の創設（コミュニティ・カフェの走り）も同じ想いでしょう。環境問題でよくいわれる「Think globally, act locally」（地球規模で考え、行動は足もとから）を、まさに実践した人だと思えます。

絹山さんとは 30 年以上のおつきあいで「民家園」、「まちづくり市民会議」、「共生の会」、「豊かな会」とさまざまな場で一緒にさせていただきました。特に市民会議で、世田谷・大田区の六郷用水跡をウォッチングした際どちらも水路の保存・復活がなされているのをみて、狛江でもぜひ実現させたいねと語りあったことをよく覚えています。

享年 74 歳、志半ばでの急死という想いが強くいたします。絹山さんの多くの「遺産」をみんなでどうやって引き継いでいったらいいのか。民家園周辺の改造と合わせなんとか六郷用水の水路復活ができないものか考えています。絹山さん、ありがとうございました。どうぞ安らかに眠りください。

狛江革新市政のレジェンド絹山さんを偲んで

狛江生活と健康を守る会 会長 田岡恭子

絹山さんとは、矢野市政実現にむけて奔走された立役者として頑張っている姿を見たのが初めてでした。矢野さんの同級生で優秀な方だとは聞いていましたが、どんな方なのか私は知りませんでした。

矢野革新市政実現後、長年にわたって「豊かな狛江をつくる市民の会」の事務局長として献身的に働かれた功績は多大なものでした。こまえ社会保障推進協議会事務局長として、また「戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会」の中心となり働かれている姿は忘れることができません。狛江駅前の毎月の 9 の日行動での宣伝や、国会行動に必ず旗を持ち先頭に立って行動するひたむきな姿を思うにつけ、今思い出しても涙の出る思いです。

また衆議院 22 区の革新共同にも心を注ぎ、病をおして黙々と働いている姿が思い出されます。私たち守る会も絹山さんの後ろ姿に見習い、国政、市政革新に向けて頑張ります。

こまえ派遣村より哀悼の意を表して

こまえ派遣村代表 岡村 透純

こまえ派遣村の世話人として貧困生活を余儀なくされている方々の支援を共に活動している最中、突然の訃報に、驚きに耐えられません。狛江に置かしては「豊かな会」「ちょこみな市民の会」等野党共同の市長選挙支援等々にも市民活動に先頭に立って動いて下さいました。狛江の市民活動にとってはなくてはならない巨星が突然消えた事は慚愧に耐えられません！絹山さんの功績は永く狛江のなかに

残るでありましょう！
謹んで哀悼の意を表します。

絹山さん いろいろありがとうございました

新日本婦人の会 梅木勝子

豊かな会に参加し始めたころ、絹山さんが一人で会議の内容を考えて運営し、そして会報をつくり、印刷、製本、発送を黙々とやっていることにびっくりしました。絹山さんの負担が少しでも軽くなればと思い、手伝い始めました。

絹山さんは会議の中身を確認し印刷して、製本するだけに準備しておいてくださり、私たちは揃えるだけでした。本当に気配りや、思いやりがあり、素晴らしい方でした。

最近では体調がすぐれない時もあったようですが、気配も見せず会議を運営し参加していたように思いました。気づいて休んでいただければよかったのかなあと後悔ばかりです。

絹山さん本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。

絹山さん追悼

東京土建狛江支部 書記長 牧岡善隆

絹山さんとは、20数年前に矢野裕さんを市長におしあげるために初めて行動を共にした記憶があります。当時、アグレッシブで、市民運動の模範のような、頼りになる兄貴のような存在でした。しかし、東京土建狛江支部は、当時の主任が運動を仕切っていて、どちらかというと、遠くでその活躍する姿を眺めているような状態でした。

それから10年以上の歳月が流れ、社会保障の運動を一緒に考え、共闘しようと2012年に「こまえ社会保障推進協議会」を立ち上げました。毎月一回の会議では常に前向きで積極的な運動、学習を示唆していただき、本当に勉強になりました。まだまだ運動の終着点には達せず、志半ばでお亡くなりになったと思いますが、これまでのご指導を糧にして運動を引き継いでいければと思っています。

ご冥福をお祈りいたします。

とことん無党派にこだわってー 戦争を支えない「共生のまち粕江」を目指して

社民党粕江支部代表 市原広子（前粕江市議会議員）

絹山達也さんが粕江で地域活動を始めたきっかけは、1984年頃、「弱視」という障がいを持ったお子さんが、学童保育からはじかれたことをきっかけに同じ保育園に通っていたママ友たちが粕江市と交渉していたのを手伝い始めたことだと聞いている。そしてI君を支える「こまえ・がっこの会」が出来、同時に絹山さん達は「共生のまち粕江をつくる会」を立ち上げた。

そして、この会で後に、共産党・社会党（元議員の清水さん）と共闘して、市長選挙に取り組んでいく。無党派、無所属にとことんこだわり、粕江市議会に議員を送り出しても、政党に所属している場合は、手伝うのは選挙の時だけで、決して代表にはならず「選対事務局長」までだった。

ただ、去年の市議選後は「社民党が無くなるのを生きているうちは見たくない」「『社民党サポーターこまえ』をつくるなら代表になってもいい」と話し、サポーター準備会第1回には参加してくれたが、合併議論が終わるのを待っていたら先に死なれてしまった。

さまざまな議員を応援・推薦し、カンパをして（陰でも）応援してきた絹さんの粕江での最後の活動の場は「社民党サポーター」を考えていたのだ。それはとりもなおさず、平和・憲法問題への多大な危機感が根底にあったと言える。

絹山さんは、粕江のその分野の運動には真剣に関わっていた。憲法9条にちなんで毎月9のつく日に行う粕江駅前での街頭宣伝にはほとんど参加していた。体調を崩してもそれは変わらなかった。

元気でいればこれから正念場を迎える自公維の「あべ」改憲に対抗した運動をさらに作っていくはずであった。癌も乗り越え、あの元気な声が粕江駅頭に響き続けたに違いない。残念です。

私たちはこれからも戦争を支えない「共生のまち粕江」を目指していく。

反戦平和の国民的たたかいを地域でリード

重国 毅（東野川在住）

「絹山さんが動かないと市長選挙は回らないよ」と、粕江の市長選挙にかかわるようになって幾度か聞いたことが印象に残っています。「みんなの広場」では、市政関連でも「ごはん会」でも数多くの楽しくそして得難い経験をさせていただきました。

「豊かな粕江をつくる市民の会」を事務局長として支え、多種多様な市民運動で幅広い皆さんと交流を広げられてきました。反戦平和の国民的たたかいを地域でリードしてこられました。市民本位の粕江市政の実現へ、政治革新・野党共闘の前進へ、本当に多くのことを担われ、成し遂げられてきたと思います。感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

みんなの居場所をありがとう

粕江市議会議員 平井 里美

絹山さんとの出会いは、財政白書づくりの公民館講座でした。もう 20 年近く前のことです。様々な価値観、異なる背景を持つ市民が集まり、大和田一紘先生のもとで学び合いました。財政の知識がゼロだった私は、初めはついていくのが精一杯でしたが、粕江の未来を思い、調査、分析をし、議論し続ける活動に、いつの間にか引き込まれていきました。

白書づくりの中で、絹山さんには多くのことを教わりました。考え方や意見は違って、丁寧に議論を重ね、違いを理解し合いながら合意できることをまとめていく。大切な経験を一緒にさせて頂きました。

その後も様々な市民活動、市民運動を一緒にさせて頂きました。ごはんと居場所「おかえり」の活動がスタートできたのも、絹山さんご夫婦と「みんなの広場」のおかげです。

昨年、絹山さんにお礼の色紙とお花を贈り、一緒に記念写真を撮ったのが昨日のこのように思い出されます。

絹山さんがご自身をジャーナリストだとおっしゃったことも忘れられません。自らが編集長を務めていらしかった「豊かな粕江をつくる市民の会」の会報で、市民の活動をいつも応援してくださっていたこと。市長選・市議選では、何の組織も持たない平井里美をずっと応援し、励ましてくださったこと。心から感謝しています。

困った時に相談させて頂くばかりで、お返しをできないままのお別れを、まだ受け止められずにいます。絹山さんに、あの笑顔で「頑張ったね」と褒めていただけるよう、そして、これからも信頼していただけるよう、頑張っていきたいと思います。絹山さん、ありがとうございました。



絹山ご夫妻とおかえりのメンバー

ありがとうございました

青木香奈（駒井町在住）

公民館のつどいで長年にわたり、“共生のまち狛江”のシンポジウムを続けて来られた絹山さん。公民館の財政講座で白熱の議論をしていた絹山さん。おかえりの応援をしてくださった絹山さん。本当にありがとうございました。

始まりは「みんなの広場」

「ごはん+居場所 おかえり」代表 宮川裕子

共生食堂を始めるにあたり、開催場所がなかなか決まらなくて諦めかけていたところ、「みんなの広場」を紹介され、2017年4月から2019年3月まで月1回利用させていただきました。

私たちの活動だけではなく、狛江市民、日本国民のためにご尽力された絹山さん、本当にありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。



狛江にうたごえを広げた功労者

「みんなのうたごえ広場」 大熊 啓

毎月の「狛江みんなのうたごえ広場」や、毎年の「狛江歌うメーデー前夜祭」、そして今年3月からはコロナ禍でも歌を届けようと、インターネット配信でほぼ毎週続けている「ささうた（大熊啓とささやかに歌うつどい）」の会場である「みんなの広場」オーナーの絹山達也さんが、9月4日に急逝されました。その翌日に「ささうた」でいつも通りお会いするはずだったのに、つい先週「じゃあ、次回は9月5日だね」と、いつも通りに会話を交わしたのに。

「狛江でも定期的なうたごえ喫茶を」と模索していたころ、「みんなの広場でもやってよ」と声をかけてくれて、2009年にメーデーうたう会を開催。連合メーデー・全労連メーデー・日比谷メーデー（全労協）の日程とそれぞれのスローガンを全部掲載したチラシを作ったら「いいね！こういうのが大事だよ」と言ってくれました。ご本人は日比谷メーデーに参加していて「いつか統一開催が実現するときの受け皿としての役割なんだよ」と語っていました。そのスタンスは市

民運動でも。先日の「ささうた」で、「粕江は昔、革新市政でしたね」というネットからのコメントに対して私が「あの市政を誕生させたのは、決して保守・革新といった構図ではないのです。だから粕江は『革新市政』ではなく『市民派市政』と呼んできました」と解説を加えたら、絹山さんは「その通り！」と声をあげて大きくうなずいていました。

「みんなのうたごえ広場」は10年以上継続し、粕江に根付いたうたごえ喫茶に成長しました。そのうたごえの存続を脅かすコロナ禍で公共施設が軒並み使えなくなる中、配信会場を提供し続けてくれた絹山さん。ご本人は積極的に歌うタイプではなかったですが、たまにリクエストに労働歌が登場したときなどは「懐かしいなあ〜」とつぶやきながら歌集をめくって口ずさむ姿がありました。まぎれもなく、粕江にうたごえを広げた功労者でした。

絹山さんを悼む

日本シルクロード文化センター代表 野口信彦

周東さんからの連絡で絹山さんの死を知った。それはあまりにも突然の知らせだった。

私が代表を務めている「日本シルクロード文化センター」は、今年11月で創立15周年を迎えるが、このコロナ禍でイベントは中止となった。

私たちは創立前にも「泉の森会館」で、ウイグル語、中国語とシルクロード講座を隔週で開いてきたが、発足にあたって安定して確保できる会場を探していた。そのような時に、小林弥栄子さんから「弟が『みんなの広場』というところを立ち上げた」ということを聞いた。すぐに飛びついた。

初めて伺った時、私は絹山さんとは初対面だった。本棚に『週刊金曜日』のバックナンバーが置いてあるのが印象的だった。やがて、私たちの乏しい財政からパワーポイント用のスクリーンを購入して置いていただいたが、毎回、スクリーンの設置をわがことのように率先してやってくださった。その心根の優しさが忘れられない。

亡くなる4～5日前にも、来年のスケジュールに関することを電話で相談した。そのときは、何かイライラしているような口ぶりだった。今にして思えば、心身とも不調であった証なのかもしれない。

いま、こうして幽明境を異にして思うには、絹山さんは、いつも市民の様々な分野の活動をととても大事にしてくださっていたことがわかる。私よりも若く、まだまだ粕江市民のための働きを続けていただきたかった方でした。

絹山さん。どうか安らかにお眠りください。私たちはあなたの遺志を継いで、豊かな粕江をつくっていくためにたゆまぬ努力を続けていくことを誓います。

オレンジの旗とともに

豊かな会世話人 周東三和子

私が狛江に越してきたのは17年前。すぐ新婦人に入り、狛江中に知り合いができた。「豊かな会」では次期市長候補を探す意味もあって、市内の有望な方たちを招いて勉強会をやっていた。そこにちょこちょこ顔を出すようになって、また市内の知り合いが増えた。集まる方たちは多士済済で狛江の市政についても多くの学びがあった。

「豊かな狛江をつくる市民の会」の最初の連絡先が新婦人だったこともあり、選挙になると絹山さんを助けて事務局的な事は、新婦人から世話人として出ている人が担ってきた。いろいろな宣伝行動を体験した。候補者カーの演説ポイントまで自転車で飛んで行き、スピーカーの音の聞こえる範囲にビラ入れ。女性だけの宣伝日やら、駅前の100人スピーチ。市民が作る選挙の先頭にはいつも絹山さんがいた。

2012年の市長選挙では田辺市長候補とともに絹山さんが市議補選の候補者になった。私は絹山事務所を手伝った。演説では必ず「私は絹じいと呼ばれています。もう66歳です。」とあの柔らかな口調で話し出す。歳のことは言わないでよ、私も同い歳なんだからと思いつつ、絹山さんの決断に敬服していた。

2014年2月宇都宮さんを応援した都知事選挙は寒い日が続いた。横殴りの雪の中、狛江駅の高架下で震えながら宣伝した。さすがに30分で切り上げたが、絹山さんは今日はやめようとは言わなかった。ある時は、幟を自転車に付けてそりのオレンジ色のヤッケでみんなで連なって走ったこともあったっけ。

「戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会」の3回の市内デモ、戦争法反対の国会行動、憲法集会、先頭にいつも豊かな会のオレンジ色の旗を持つ絹山さんがいた。そして狛江駅頭の9の日行動。毎月3回9のつく日に憲法9条を守ろう、安倍改憲反対の署名を集めた。参加者が交代でスピーチするのも恒例だった。9月9日も9の日行動を予定していた。絹山さんの告別式の夜だった。誰かが、今日もやるのと尋ねてきた。「やるよ！やらないわけにはいかない」。予定通りの署名行動、いつもより多い50筆が集まった。安倍退陣で署名用紙は新しくなるようだが、9の日行動は、改憲の野望を断念させるまで続けていくからね、絹さん。

事務局長を早く交代したいと言い続けていた絹山さんの要請に応えられなくてごめんなさい。市民と野党の共同の先駆け、「豊かな狛江をつくる市民の会」はこれからも「市民（ひと）輝く狛江」を目指して引き継いでいきたい。見守っていてください。

市議 補選

6/17告示
6/24投票

市民派市政さらに発展へ
田辺良彦さんと力あわせます

絹山達也

矢野市政を支えて16年
「豊かな粕江をつくる市民の会」事務局長

やるっきゃない

きぬやま
たつや

66歳

略歴

1946年粕江市生まれ。日本大学芸術学部卒業。元世田谷区職員。豊かな粕江をつくる市民の会事務局長。山歩きとお祭り人物が趣味。好きな歌手はテレサテン、石川さゆり。座右の銘「今日の「日大切に」」



粕江市長
矢野ゆたか

市民派市政ささえる大黒柱
絹山達也さんに期待します

そのために私も老骨に鞭打ってたたかうことを決意しました。ビルマ(ミャンマー)のアウン・サン・スーチーさんも同い年。私がんばります。

その古いシステムを大きく転換したのが矢野市政です。まだ足りない点がありますが、市民本位の市政の流れは確実に進んできました。この流れをあと戻りさせるわけにはいきません。

この粕江市では、16年前まで古い政治がうんざりするほど長く続いていました。一部の有力者やその取り巻きによる市民の声が届かない市政。市民の命や暮らしよりも開発優先の冷たい市政。

豊かな粕江

2012年6月号外 豊かな粕江をつくる市民の会の見解を紹介します。
〒201-0014 東京都豊田2-20-12-103

ご意見をお寄せください。TEL&FAX 3488-3981
ホームページ <http://yutakanakai.clean.to/>

2012年6月市議補選チラシ

第26回まちづくりシンポジウム

第26回まちづくりシンポジウム

公共施設計画を考える

3月8日(日)午後2時～

3年前の高橋市政誕生直後の11月、「狛江市公共施設整備計画」が策定されました。矢野市政時代の1989年12月に策定された「公共施設再編方針」を大きく変更する内容でした。

「公共施設再編方針」の核となっていたのは、第三中学校の旧四小跡地への移転でした。移転後の三中敷地に3カ所のこまえ工房(福祉作業所)を統合した施設、新図書館、教育研究所等を設置する計画でした。

しかし、「公共施設整備計画」では、「現時点での狛江第三中学校の移転は困難との判断から中止することとしました。これにより施設整備をするにあたって再検討が必要な施設があることや財政状況も踏まえたうえで再編方針のうち施設別再編方針について見直しを行い、狛江市公共施設整備計画として策定しました」としています。

この「公共施設整備計画」のもとで進められている整備事業などの現状や課題を、四つの施設をとり上げ、熱心に関わっている市民の方々からお話しいただき、参加者と一緒考えていきたいと企画しました。

3月8日(日)、ぜひ中央公民館においでください。

とりに上げる四つの公共施設

- 市民センター(中央公民館・図書館)の充実に向けて
- ほかほか広場(和泉多摩川)への障がい者支援施設設置に向けて
- 市民活動支援センターの設置に向けて
- むいから民家園の市民運営廃止、「市直営化」について

■日時 3月8日(日)午後2時00分～4時00分
 ■会場 中央公民館(市民センター)2階/第2会議室
 ■主催 共生のまち一泊江をめざす会
 ※電話 03-3480-6794 みんなの広場内

公共施設計画を考える

■日時 3月8日(日)午後2時00分～4時00分(若干延びるかも)

■会場 中央公民館(市民センター)2階/第2会議室
 ■主催 共生のまち一泊江をめざす会

- 参加者30人を見込み、資料を用意します。
- 当該施設をめぐる現状と課題について報告者から20分程度お話しいただき、10分程度質疑応答をおこないます。1施設あたり30分程度の時間配分となります。
- 「狛江市公共施設再編方針」、「狛江市公共施設整備計画」を3部ずつ用意します。
- 進行役は絹山。シンボ開催の趣旨、両計画の変更点などを説明します。
- 以下の順番でお話しいただきます。

①市民活動支援センターの設置に向けて

◇報告 清水信之さん
 ◇資料 未定

②むいから民家園の市民運営廃止、「市直営化」について

◇報告 林健彦さん
 ◇資料 未定

③ほかほか広場(和泉多摩川)への障がい者支援施設設置に向けて

◇報告 絹山、ご来場の方々
 ◇資料 昨年11月13日の庁議で配布された資料

④市民センター(中央公民館・図書館)の充実に向けて

◇報告 平井里美さん
 ◇資料 未定



